

〔一般講演〕

1. 小児歯科診療室開設後3年間の定期診査受診状況

○國松 尚美, 細矢由美子, 苑田奈都子,
古澤 潤一, 行成 哲生, 有富 匡子,
城臺 維子, 後藤 讓治,
(長大・歯・小児)

小児の口腔管理を行う上で、定期診査は必須の要因である。

我々は、第3回日本小児歯科学会九州地方会において、小児歯科診療室開設後2年間の来院患者状況について報告を行った。その結果、定期診査の受診率は、昭和58年度に初診で来院した者については、36.4%、59年度の者については42.9%と低かった。また我々は、開業歯科医師を対象に、長崎市及び長崎県における小児に対する歯科診療の実態調査を行い、第22回日本小児歯科学会大会及び第2回日本小児歯科学会九州地方会において発表した。そして、定期診査の実施率が低い事を1つの問題点として提示した。

そこで今回は、長崎大学歯学部小児歯科診療室開設後3年間に来院した患児について、定期診査の受診状態を調査した。そして、患児を定期診査に応じている群と応じなかった群に分け、初回来院時の主訴、全身疾患の有無、初診時年齢、通院所要時間、処置歯数、来院の動機などの要因別に分析したので報告する。